

戦時下の暮らし



多くの家庭では井戸からくみ上げた水を炊事や洗濯、風呂などに使っていました。また、かまどや七輪^{しちりん たきぎ}で薪を燃やしてご飯を炊き、煮物などをつくりました。



ラジオ

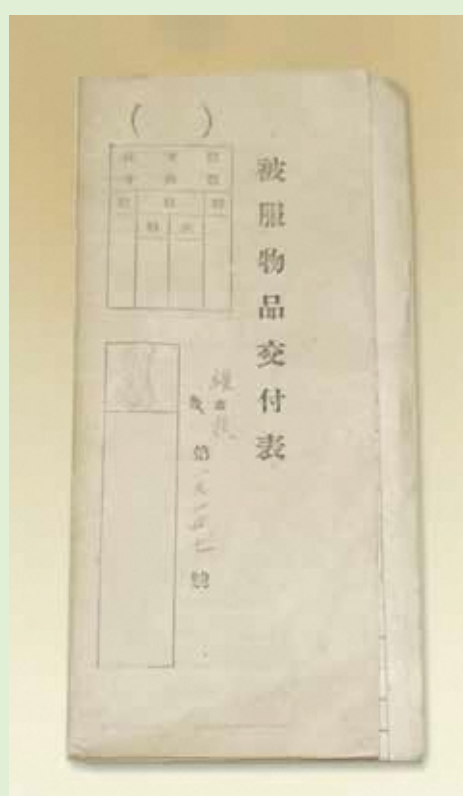


羽釜

電気は普及していましたが、家庭電器製品は電灯とラジオくらいでした。



衣類は、男性は国民服^{こくみんふく}、女性はもんぺの着用が奨励^{しょうれい}されました。



「ぜいたくは敵だ!」を合言葉に、節米^{せつまい}や代用食、代用品が奨励されていましたが、食料・物資の不足から米、砂糖、魚、塩など、生活必需品^{はいきゅうせい}の多くが配給制になりました。

戦時中も年中行事はおおむね続けられていました。



天王様の祭り 1942(昭和17)年